

新技術・情報名	古茶温水処理による大量育苗法について		
実施場所	三重県農業技術センター 委業部	分類	* ③

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

密植速成機械化桑園の造成・改植に際しては、桑苗を大量に必要とし、農家においても簡易に桑苗を生産できる方法として、古茶挿し木法が改めて見直されるべきである。そこで古茶挿し木法の簡易さを欠けず活着率の向上、安定、及び古茶の有効利用を図るためさし穂の温水処理を利用することについて検討した。方法(概要)は以下のとおりである。

- i) さし穂(3芽 約15cm)10本を1束にし、発根促進剤処理を施す。オキシベロン液(有効成分:インドール酢酸0.4%):60倍液、24時間浸漬。
- ii) 温水処理:30℃、10日間。温水槽は86cm×176cm×19.5cmで、容水量は約260ℓであり、基部3cmを浸漬し、処理中は簡易ポンプにより水の循環を行う。
- iii) 以上の処理後、あらかじめポリエチレンフィルムでマルチした、さし床、ほ場に移植する。

2) 技術・情報の適用効果

- i) 特に高度な技術・作業を必要としない育苗法である。
- ii) 桑品種間及び枝条の採取部位間に若干の差異は認められるが、従来法以上に高い部位まで利用可能である。

3) 適用範囲

中核農家(高能率養蚕地域等)

4) 普及指導上の留意点

- i) 桑園造成については堆肥施用等慣行法にしたがうが、特に連作地の場合は深耕(天地返し)をすること。

ii) 装置を新灰に作成する場合には電気系統の安全性を十分確保すること。

2. 具体的データ

第1表、温水処理古茶挿し木法による活着状況

桑品種	採取部位 (3芽約15cm/1部位)					
	1	2	3	4	5	平均
一ノ類	95%	93%	73%	50%	50%	72.2%
しんいちのせ	78	63	68	77	60	69.2
改良一ノ類	92	88	87	88	92	89.4

- ・ 施木: 春切古茶。1穂木3芽(約15cm)を基部から5本採取。
- ・ 実施時期: 1985年3月上旬、採取貯蔵。同4月上旬、挿し木。

第2表、生育状況及び収量

桑品種	植付本数 (本)	活着率 (%)	平均枝条長 (cm)	平均根回り (cm)	収量 (kg/10a)
一ノ類	15,000	82.2	162	1.26	1,700
	10,000	79.8	165	1.21	1,695
	5,000	83.6	187	1.34	1,570
剣持	5,000	85.7	177	1.74	1,725
	5,000	86.7	175	1.38	1,990

・ 実施時期: 第1表に同じ。

3. その他特記事項

- i) 種苗育成試験 昭和57年~59年 県単
- ii) 温水処理による古茶挿し木法に関する試験 昭和60年~63年 県単
- iii) 密植桑園の栽培期間の短期化技術の確立 昭和60年~65年 県単